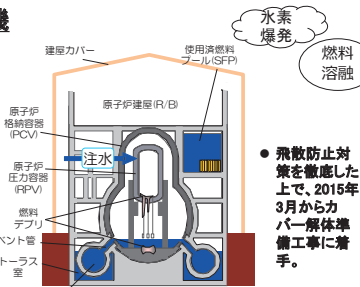
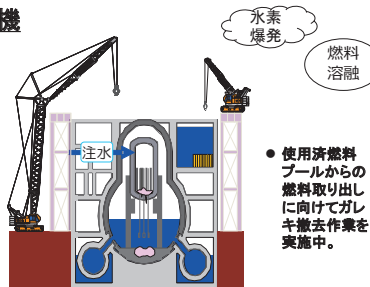


現在の原子炉の状況

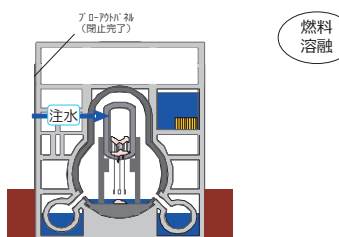
1号機



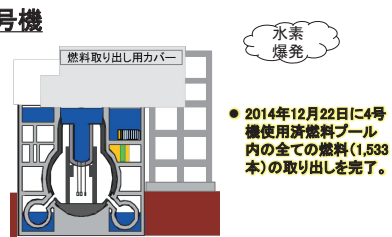
3号機



2号機



4号機



現在、原子炉は安定的に冷温停止状態に維持されていることから、原子炉建屋から放射性物質の放出は少なくなっています。

福島第一原子力発電所の建屋上部などで採取された空気を分析し、1～4号機の原子炉建屋から放出されている放射性物質（セシウム）の量を評価したところ、2012（平成24）年7月時点で1時間あたり約0.1億ベクレルと、事故当初の8,000万分の1、2011（平成23）年7月と比べても、約100分の1にまで少なくなっています。また、年間の被ばく量を計算すると、原発敷地境界において0.03ミリシーベルト/年と、自然放射線による年間線量（日本平均2.10ミリシーベルト）の70分の1程度です。

本資料への収録日：2013年3月31日

改訂日：2014年3月31日

：2015年3月31日